

会 議 録 (要 旨)

健康増進課

会 議 名	令和 7 年度保健センター運営委員会
日 時	令和 7 年 6 月 2 7 日（金） 午後 1 時 3 0 分～2 時 2 0 分
場 所	保健センター 2 階 保健指導室
傍 聴 者	なし

《会議内容》

- 1 開会
- 2 自己紹介
- 3 議事

- (1) 令和 6 年度八潮市立保健センター事業実績報告について 資料 1
各事業について、担当から報告した。

【質疑応答】

委 員：産後ケアの通所型は、延べ 98 人の利用とあるが、複数回利用ができるのか。
子どもは何か月まで利用できるか。

事務局：実人数は 52 人であり、複数回利用した方もいる。
利用できる児の月齢は原則 5 か月未満としている。

委 員：がん検診の受診者は増加したと報告を受けたが、例年通りの受診率か。
今後の対策など考えを聞きたい。

事務局：がん検診の受診率は、概ね例年とおりで、胃がん検診、肺がん検診では、
例年より受診率は向上している。
しかし、前年度より受診者数は増加したものの、県内受診率をみると低い状
況にある。引き続き、受診勧奨通知の発送や機会を捉えた受診勧奨に努めた
い。

委 員：こども家庭センターと保健センターの関係はどのようになっているか。

事務局：組織改正前は、健康増進課、保健センター内に成人保健担当と母子保健担当
が在籍していたが、令和 5 年度の組織改正により母子保健担当は、子ども家
庭支援課となり、母子保健及び児童福祉を担当している。

委 員：子どもの健診は子ども家庭支援課、予防接種は保健センターの認識でよいか。
事務局：そのとおり。

上記、令和 6 年度八潮市立保健センター事業実績は承認された。

- (2) 令和 7 年度八潮市立保健センター事業計画について
各事業について、担当から説明した。

【質疑応答】

委 員：1 か月児健診は、通常、産科で受診することが多い。

市内に産科がないが、市外で受診した場合は対象になるか。

事務局：近隣の産婦人科 6 医療機関とは、業務委託契約している。

それ以外の医療機関で受診した場合は、償還払いで対応する。

委 員：小児科での受診はあるのか。

事務局：母親の産婦健診と合わせて、1 か月健診も産科で受診しているようだ。

委 員：4 月から始まったとのことだが、どのようにお知らせしたのか。

事務局：対象者には、個別通知を行ったほか、市の広報やホームページで周知している。

委 員：令和 6 年度の健康まつりは、市民まつりと同日に行い、多くの参加者があったが、令和 7 年度の市民まつりは中止と聞いている。今年度の集客はどのようにする予定か。

事務局：昨年度は市民まつりと同日のため、非常に多い来場者となった。今年度は、市民まつりが中止のため、昨年度同様の来場者数にするには、周知に力を入れる必要があると考えている。広報、ホームページ、840 メールでの周知の他、各事業での周知や町会自治会への回覧を予定している。

委 員：AYA 世代在宅療養支援などは、対象者はどこで知ることができるのか。

事務局：訪問診療を行うクリニックやがん治療を行う医療機関、訪問看護ステーション、ケアマネジャーなどには、直接説明に伺い、チラシと申請書を配布する。市内医療機関や調剤薬局にはポスターの掲示をお願いする。

委 員：新型コロナワクチンは定期接種として継続するのか。国からの助成がなくなると自己負担額が高くなるのではないか。

事務局：令和 6 年度については、国から接種 1 回あたり 8,300 円が助成された。令和 7 年度は国からの助成はなく、自己負担額については調整中である。

委 員：肝炎ウイルス検診について、HBs 抗原検査で実施しているが、実施体制はこのままで問題はないか。

事務局：肝炎ウイルス検診は、国の要領に基づき実施しているため、市単独で実施体制を変更することは難しいが、年に 1 度、県主催の研修会に参加し、専門医から講義を受ける機会があるため、確認したい。

委 員：日頃の活動の中で、保健センターで行う事業の周知徹底がされていれば、病気の早期発見・早期治療につながる事例に遭遇する。

健康手帳には、健康情報の掲載があり、血圧や体重、受診した検診の記録ができるページがあり、健康手帳の活用方法について周知が必要だと思う。

事務局：健康手帳は、各種検診受診の際や保健センター窓口で配布し、健診や健康の記録として活用いただくものである。ご意見の活用方法については、周知が不十分であり、今後検討したい。

委 員：健康づくり懇話会は、出前講座として市民協働推進課を通じて申請が必要か。直接、保健センター窓口で申請してよいのか。

事務局：申請は、出前講座の担当課を通して、保健センター窓口での直接申請でもよい。健康づくり懇話会は、実情に合わせ、講座が行えるので活用してほしい。

委 員：子どもは母子健康手帳があり、健康管理と合わせ予防接種の記録ができる非常に優れた手帳である。

委 員：健康手帳や予防接種手帳、お薬手帳など複数持ち歩かなければならない。アプリがあると持ち運びも管理も楽になると思う。

委 員：自殺による死亡数は、県平均より高い。市としての対策は何かあるか。

事務局：庁内では相談先一覧を配布し、必要な方が相談につながるよう共有している。また、ゲートキーパー養成講座の内容を工夫し、グループワークなど実践に即した講座や職員向けの講座も企画し、対応していきたい。
上記、令和7年度八潮市立保健センター事業計画は承認された。

4 閉 会